

日本での留学の感想

弘前大学大学院 農学生命科学研究科 修士課程 2 年

郭 芸芸（中華人民共和国）



私は平成 22 年に弘前大学入学後、農業経済分野における協同組合学を研究した。最初の時、日本語も下手だし、日本の生活習慣と文化も分からなく、それぞれの問題に会った。異国に生活する時に孤独感、無力感が偶に心に湧き上がる。だが、その時に「自分はもう大人なんだ」と言い聞かせた。独立心は海外生活の一番肝心なことだと思う。

たぶん、日本に最初来た皆が私と同じく言葉、専攻、生活の整理などの問題に出会っただろう。でも、どんな難しい問題にしても、解決の方法があると思う。

私はこの二年間、日本人の友達と付き合って、大学のスポーツクラブにも参加し、社会活動も行った。これらは日本語の上達、日本の文化の理解に大きく役立った。卒業する前に、一つ残念のことはボランティアがまだやった事がない。実は、日本に留学しているときに、日本人の皆様の優しさと熱意をずっと感じていて、もし機会があれば、自分のできることもやりたく、感謝と助け合いの気持ちを伝えたい。

今年私は、ロータリー米山奨学金をもらった。生活と学習の両方の支えとなった。毎月の例会に三分スピーチがあって、これが私の会話能力を上げるいい機会となった。何ととっても、私の経験は留学生として、まず、自身の安全を重視して、学校の先生達と大家さんによく連絡することである。次、自分の専攻を集中して、好きなことを全力でやって来ることである。最後は、勉強と生活のバランスを注意して、自分の興味を続いて保持しようと新たな興味を探しようと、生活の面白さを楽しむことである。

留学生の皆様、自分の笑顔と勇気を出して、新しい人生の旅に迎えて、明るくて元気に暮らしてください。

私の日本留学生活

弘前大学 人文学部特別聴講生

ソン・ヒョンウク（大韓民国）



軍隊の生活をしていて2009年、これからの進路について考えたことがありました。2007年、1年生の時の日本の東京にある大学に交換留学をした先輩の日本の生活に憧れ、私も兵役を終えて日本に留学することを決めました。

私はそもそも日本語の専門でもなかったですし、日本語能力資格は何一つも持っていませんでした。しかし、2010年の3月に兵役を終えてから日本語の会話の練習や友達との2回にわたる日本旅行を通じて日本留学に対する志を大きくしました。休学の時期が終わって、大学に復学して留学に行くための資格を備えるために日本語能力試験の勉強を一生懸命しました。そして、3ヶ月間の勉強を通じて日本語能力試験N1に合格し、日本に留学することができました。

弘前大学に留学したことは私にとって大きい影響を与えてくれました。元々東京への留学を考えて準備したのですが、私が弘前大学を選んだ理由は周りの推薦があったからです。私の5年前に東京に留学をした先輩は私に「東京に留学すると君はあまり日本人の友達に色々な面倒を見てもらえない」と教えてくれました。それが事実かどうか分かりませんが、今の私は日本で生活している中で日本人や他の外国人の友達の細かな心遣いのお陰で豊かな生活を過ごしています。弘前は東京や横浜など元々志願しようとした地域に比べたら小さい規模ではありますが、情が深くて愉快的日本人の友達と活発な交流をすることができます。弘前は本当の日本を味わうにはこの上ないほど良い町です。

そして、日本での初めての夏休みの間の旅行も私の視野を一層広げることになりました。ドイツの友達と北海道を旅しながら様々な人たちと出会い、色々なものについて話し合うことによって日本の社会、政治、経済など日本国内の状況を理解することができました。

結局、弘前だからこそ、こんなに日本のことを理解し勉強ができたのではないかと思います。数えきれないくらいのたくさんの絆を作りながら経営や日本語などの専門分野にとどまらない知識を得て、本当の意味での交流をすることができました。

私はここでの貴重な経験や私が今まで勉強したものを活かして将来観光の分野に進みたいと思っています。なので、この多くの経験や様々な文化を持つ人たちとの交流は、私が韓国に戻り観光分野への進路を考える際に大いに役に立つ大事な時間となりました。

ここでの留学生活は自分の人生に本当に大きな影響を与えてくれました。後悔のない留学生活を過ごすことができたこの弘前大学に私は感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

応試教育 -四年留学があるからの「やりたいこと」

青森大学 社会学部社会学科 4 年

石 越（中華人民共和国）



応試教育というのは自分の母国中国の一つ学校教育方法であり、学問上特殊な現象があるけれども、日本の詰め込み教育に似ていた教育現象だと考えて頂いていいと思う。そして、今自分は、この応試教育を研究問題をし、論文を書いている最中で、四年留学生活の中で見つかった「やりたいこと」でもある。

ここで、応試教育を少々紹介したいと思う。応試というのは社会生活や教育過程の中で様々な試験を対応することである。学校教育制度も古くから既に応試の部分がある。

中国では、晋代以降の官僚は基本的に試験を通じて選抜されていた。よって、古代中国人は出世するため、かなり重度な受験勉強をする。現在残された漢詩と宋词の中で、大量な受験勉強の苦しさを記載する詩と詞が残されている。自分がすぐいえるのは「十年寒窓無人問、一挙成名天下知。」である。その意味は「十年の努力の苦しさは誰にも問われ事が無いし、いったん合格すると有名人になるみたいに名前が天下すべての人々に知られる。」である。一見結構応試てきなものであるが、試験の参加は自己任せ、難しい受験勉強も自己責任であって、近代の中等学校教育みたいに全国民を対象し、学校行くのはほぼ強制的に行われるものと違いがある。

そして、近代的な中等学校教育にで、機械暗記による知識量の増大に比重を置く、多量の勉強による基礎学力の早期習得を目指し、まるでそれら学生に覚えさせた知識は試験のためだけの存在であったときになって、そこで応試教育が生まれる。

なら、応試教育が実施される原因である試験はなんだろう。

試験は現段階で人材を選抜する一つの手段に過ぎない。そして、試験は何よりも、同じ時間、同じ場所、同じ問題で行われるのを重視のものであるから、試験は「公平」だと見えてくる。

しかし、自分は試験をいいものだと思わない（ここでの試験はまず進学試験など中等学校教育の中で行われる試験を限定する）。何故というなら、試験は「文化」を含まれている。試験に落ちた生徒はただその「文化」と合っていないだけで、その生徒の学力や才能など関係が薄い。さらに言うと、試験の「公平さ」である「同じ時間、同じ場所、同じ問題を重視」という特徴は逆に、人間が元々所有している多様な潜在才能を限定された基準の中で選別した、よって、選別に勝った「人材」というものも限定であり、多様さが足りない。

結局、応試教育と試験の相互作用で、結果がさらに悪くなっていると思う。この応試教育というタイトルを見つけて、研究したいのはこの私の四年留学生活の一番の収穫である。もちろん、ただの無名な卒業論文ごときで、この問題を完全に解釈できるのは思わないだが、とりあえず今の私はやる気満々である。

留学生生活

青森大学 経営学部経営学科3年

周 正馨（中華人民共和国）

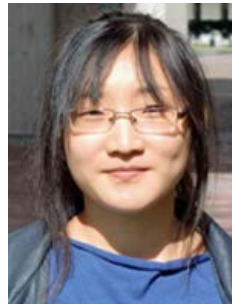


大学に入って三年が経ちました、あっという間でした。三年間の大学生活はとても楽しく、いい思い出になりました。学業に力を入れながら、日本での生活を満喫し、日本の友達も一杯できました。今になって思い出すと、日本に来た当初、言葉も全然通じず、困り果てていました。でも日本の皆さんは、そんな私に親切に接してくれ、日本語だけでなく、日本の暮らしについても色々な事を教えてくれました。本当に感謝の気持ちで一杯です。大学へ入学してから、各種のボランティア、日中友好交流会などで日本の皆さんと様々な活動で御一緒させて頂く中で、日本の皆さんの温かい気持ちに触れることができ、また国籍を気にせず、皆で一つの目的を目指して歩いていく尊い精神と、最後まで諦めないド根性を学ばせて頂きました。だから今は、大学を卒業したら、憧れの日本で就職し、そして憧れの日本に住みたい気持ちで一杯です。残りわずか一年の大学生活ではありますが、大切に過ごし、学業に勤しんでいく気持ちを忘れずに、卒業までラストスパートで頑張ってみります。

日本での留学生活の感想

八戸工業大学 電子知能システム学科 4年

賈 向穎（中華人民共和国）



私は日本に来て4年目になります。来年の3月に学士の学位を取得して長い日本での留学生活が終わります。嬉しい気持ちとともに懐かしい思い出で胸がいっぱいです。この長い間に、大学での勉強、多くの人と付き合いしていく中での体験、耳に入ってくることから学習といった様々な形での社会体験など、日本での留学生活が大変勉強になっています。

留学の間に、いろいろとはじめてのことをして、例えば、納豆を食べたこと、電気関係学会東北支部大会の発表会で論文発表したこと、日本の祭りで日本人の友たちと一緒に遊んだことなどです。日本の文化も深く理解して、日本の多くのところに行って、本当に楽しかったです。もともとあった不安な気持ちも消えて、日本語の勉強だけではなく、日本の伝統、習慣などさまざまなことも学ぶことができて本当に良い勉強になったと思います。

大学3年の夏休み、両親と姉が日本にいる私を訪ねて来て、家族と一緒に旅行しました。家族は日本の文化と自然の美しさと日本人の心のこもった親切なサービスを体験しました。美味しい料理を食べて、美しい景色を見て、心も体も大満足しました。その気持ちがいつまでも残り、皆日本が好きになりました。日本の文化、自然を感じたりして、本当に幸せな気持ちになりました。

日本での留学生活は、自分の人生の中でかけがえのない宝物になり非常に満足しています。

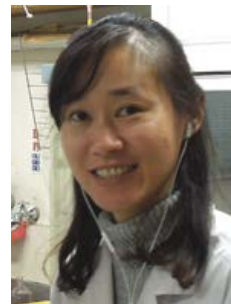
八戸工業大学の先生と学生は優しい方々ばかりで、本当に暖かい環境で勉強したと思います。皆さんに本当に感謝いたします。パートナーではない日本人の友達も、留学生の私を助けてくれました。もちろん日本にいる間に、私は辛かった時もあり、ホームシックになったこともありました。皆さんがそばにいてくれたので、一人で日本にいても寂しくなかったです。皆さんに対し、伝えきれないほど感謝の気持ちでいっぱいです。本当に皆さんと出会えて良かったと思いました。また日本に来たいです！

今では、日本語だけではなく、料理や洗濯などの家事をするようになりました。留学生活はよかったと思います。本当に八戸が大好き。八戸工業大学の先生方に感謝しています。ありがとうございました。

日本の印象

北里大学大学院 獣医畜産学研究科獣医学専攻博士課程3年

ラウハラッチャダニン・ティタリー（タイ王国）



私は2年前の2010年に北里大学大学院博士課程に入学しました。日本に来る前には、日本は着物や相撲、茶道、華道、料理、地震、電化製品などで有名な国という印象を持っていました。その後、日本に住み始めて私は日本のほとんど全てのものに感心しています。

日本は、少なくとも技術や社会資本において世界で一番進んだ国でしょう。列車を例にとると、時刻表通りに走り、ドアは正確に決められた場所で開きます。更に、新幹線ネットワークを使えば数時間以内に遠いところまで旅ができます。

日本は伝統と現代が興味深く混在する国です。通りを歩いていると、着物を着た女性の横をスーツを着た女性が歩いているとか、高いビルディングの脇に古い居酒屋があったりします。

日本人はとても礼儀正しく、日本人同士でも、外国人に対してもよく頭を下げます。全体として社会は平和で人は皆丁寧です。もし何かに同意できないときには、人はノーという代わりに何とか別の方法で考えを伝えようとします。相違を乗り越えてより調和を持てるように配慮します。大事なのは、日本人の無限とも思えるほどの友好的な態度と助けようという姿勢が外国人に向けられることを私はありがたく思っていることです。

日本はまた、信じられないほど安全です。あなたは旅行中に普通する心配をしなくても大丈夫です。泥棒とか、高額料金をふっかけられるとか、身ぐるみ剥がされたりするなど。

日本人は所属する会社に緊密な関係を持っています。彼らは一生懸命働き、自分の所属する組織を大事にしています。彼らは所属する組織の企画するスポーツ大会やその他の活動を楽しみます。日本人は真面目に働きますが、仕事だけが人生ではありません。お祭りや祝日も大いに楽しめます。お祭りの時には、多くの人が子どもまで含めて伝統的な衣装に身を包み一生懸命踊ります。

日本は山の多い国です。富士山は完璧な姿をした火山で、日本庭園は自然の風景を模して作られます。

日本には避けがたい自然災害の危険のあることは日本のマイナス面に見えますが、国が十分に対処できる準備をしているように見えます。例えば、2011年の津波で日本人は適切に行動しているように見えました。彼らは恐れず仮設住宅や十分な食料を準備しました。そういう対処を見ていると私の心も安心できました。

日本の食べ物は、とてもすごいと思います。新鮮で注意深く調理され、綺麗に並べられます。味がいいだけでなく、美しく見せられなければなりません。舌の喜びにとどまらず目の喜びにもなります。

実際、私の日本訪問は大変価値のある経験を残してくれ、日本の生活と文化についてより分かるようになりました。更に、私は日本が大好きで、この国で新しいことを学び続けたく思っています。

夢へ一歩

八戸工業高等専門学校 物質工学科 4 年

ゾリグトバトル マナル（モンゴル国）



モンゴルから日本に留学して二年半経ちました。日本に来る前の自分と今の自分を比べてみると大きな変化に気がつきます。

六年前のことです。私の母がある学校に私を受験させました。合格して入ったその学校は「新モンゴル」という日本式の高校でした。侍、桜とロボットくらいしか知らなかった日本に近づくきっかけはその高校でした。

漢字、ひらがななどを始めて勉強し、学校に入るとき靴を脱ぐことや挨拶のときお辞儀するなど異文化を少しずつ学んでいました。先生たちは日本に留学させるためにそうして私たちを支えていたのです。高校の時、がんばって勉強して奨学金をもらい日本に留学するのがみんなの大きな夢でした。

今私は日本に住んで、日本語で授業を受けて、日本文化で生活しようとがんばっています。6 年前の夢で見たのとは違って日本に来るだけでは幸せになれませんでした。勉強がもっと難しくなり、モンゴルの文化とはぜんぜん違う文化に慣れようとするのが時々辛いことをよく感じています。ある面では私の高校の夢が叶えたと言えるが、叶えた夢が小さかった気がします。

それは周りを見る見方がかわっただけではなく、想像もできなかった機会がどんどん出てきたからだと思います。たとえば、今年は全国高専からの生徒たちと一緒にマレーシアを見学することができたのと春休みをアメリカで過ごしたなど六年前の自分が夢でも見たことがないすごい時間を過ごしました。

目標に達したときの幸せが、そこに達するまでの辛さの量と同じであることをだんだん分かってきました。自分が何かに成功するほど、新しい機会がますます増え、成長するほどもっと何かがほしくなります。

夢は叶え終わるものではない、近づくほど広がるものです。

今の私の夢は、世界をまわって旅行する、アメリカで大学院に勉強することや誰にも頼らず明るい将来を自分で作ることです。

日本に来るだけでよかった 6 年前の夢は、だんだん成長してここまできたのです。6 年後の夢はどうやって変わるか分からないが楽しみに待っています。

最初に述べたように昔の私と今の私を比べると大きく変化したのが、やはり夢です。

夢へ一歩一歩進んでいるうちに会った人々、乗り越えた困難、そこから得た経験が今の私を作ってきたので、今からも幸せと辛さの中から将来の私が生まれるだろうと思います。

日本に留学してこれまでに経験したこと

青森公立大学 経営経済学部 3 年

鄭 祉浩（大韓民国）



私が青森公立大学に入学する前、いえ、まだ日本に来る前、その時はまだ日本がどんな所か、テレビやインターネットなどで聞いた情報が全てでしたので、なんだか漠然としていて、何も思い浮かびませんでした。その上、私にとって初めての外国、初めての一人暮らしだったので、日本に行ったらちゃんと生活できるかどうか自信がなくて心配でした。

そして何日か後、心配していた日本での生活が始まりました。掃除、洗濯、買い物や料理を自分でやらなければならないことが、ここに来るまで自分でご飯を炊いたこともなかった私には初めての経験だったので、いろいろと大変でした。しかし、日本に住んで数ヶ月が過ぎた今は、ある程度慣れてきましたので、面倒なことは変わりませんが、ぎこちなさは無くなりました。日本に来てから私の大発展だと思います。

日本で生活するのもそろそろ慣れてきたところで、入学式が近づいてきました。一人暮らしをするのも結構心配でしたが、最も心配になったのは、一緒に授業を受けたり、遊んだりする「友達」を作ることでした。日本に来たばかりで、さらに外国人の私がうまく友達を作ることができるかどうか、知っている人も全然いませんし、誰か私に関心を持ってくれるのかもわからなくてすごく悩みました。オリエンテーションの時、友達を作ろうとして隣の人に話かけ努力しましたが、結局失敗し、このまま友達を作れないかと思って不安になりました。それでサークル紹介の時、何かサークル入ったら友達が出来るとかかもしれないという希望を持って色々なサークルに入りました。初めてのサークル活動の日、互いに自己紹介をして、偶然に学科とクラスが同じ人と会って色々話しながら友達になりました。そのあと、友達の友達に紹介されながら、友達ができたので、友達ができないかもしれないという心配はもう無くなりました。

また、韓国では部活のようなものがあまり活発ではなく、名目的であることが多かったのですが、日本では活発に行われていましたので、私にとっては初めてのサークル活動です。特によさこいサークルの場合、体を動かす活動は結構久しぶりで、よさこいを踊るのも楽しく、興奮しました。初めは体が動くか心配でしたが、先輩達が親切に教えてくれたので、安心でした。

日本に住んでから5ヶ月ぐらい、短くも長くでもない期間ですが、これまで日本に住みながら、弘前の行事でよさこいを踊ったり、友達と北海道に旅行したりなど、いろんなことができました。私は留学という目的で来たので、勉強も頑張りつつ、今後もしばらくいろんなことに挑戦しながら、大学生活を楽しく過ごしたいと思っています。

もったいない人生だと、一度も思ったことがない

青森中央学院大学大学院 地域マネジメント研究科 2年

ピポプチャイヤーシット マーウィパー（タイ王国）



現代、外国語を勉強している、また勉強したい学生がさらに増えてきた。第二言語にとどまらず第三、四さらに第五言語まで勉強するのも珍しくない。また、その外国語が上手になるように、その言葉の国で留学しようと思う学生も少なくない。私もそうだったから、青森に来るようになった。

私の母国では、2000年ほどから日本語を勉強している人は多くなってきた。その理由は日本のファッション、アニメ、歌手などの日本文化の影響を受けていたかもしれない。しかし、最近は多くの日系企業がタイに進出してきたので、以前のように日本文化の影響だけでなく、社会の価値観や自分の将来のため、日本語を勉強し始める、あるいは一度諦めたが、勉強し続けようかなと思った学生が倍々になってくる。私は日本の文化も好きだし、自分の将来と家族のためにも考えながら、一度も諦めずずっと日本語を勉強しつづける。

確か、誰でも東京で留学しようと思った。「もし、他のところで留学したらどうしよう？ 過ごせる？ ありえないでしょ？」と思った人もいるはずである。私も最初はそう思ったが、東京や大阪である都市しか知っていない私にとって青森に来ると、その考えが変わっていた。ここに来たのはいろいろなことを教えてくれた。行ったことのない青森にも魅力がたくさんあるよ、と伝えたいくらい後悔しないと思う。私はその魅力参考にして楽しく過ごすことができる、と今気付いた。楽しく過ごすのは、そこがよく知っているわけではなく、その場所の魅力を感じたこそ、楽しく生活するようになると思われる。特に、行ったことないところは、逆に魅力がいっぱい感じられる。よく知っているからつまらないだろう。だから、その人の考えや感じたことによって、どこでも楽しく過ごすと思える。

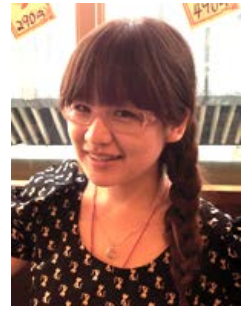
いろいろなことを教えてくれたと上記に言ったのは、この3年間で経験したり、活動したり、感じたりしたことである。まずは、言わなければいけないのは青森の象徴である雪のことである。タイは一年中で平均温度が30度を超えるから、耐えられないほど雪が降ることがありえない。しかし、もし青森に来なければ、その経験は絶対分かるわけがない。死ぬわけでもないから、その寒さとともに必ず生きていこう、と試してみた結果、だんだん慣れてきた。生けるじゃん？、と思いながら笑っていた。もしかして、私にとってそれは大したことだった。今、青森の冬はまだ苦手だが、好きになった。雪だるまで遊べるから、楽しく過ごせると思えるくらい好きになった。それから、食べものや文化なども、そのことを学びながら、少しずつ慣れてきて好きになった。

もちろん、言語のほうも良くなってきた。毎日、日本語を使うから、例えば、買い物する時に店員の話に聞いたり返事したりすることや、部屋にいる時もテレビのニュースや番組からなどの日本語が耳に入ったりすることが日本語を使う。だから、ここにいる時は、もったいない人生だ、と一度も思ったことがない。

ありがとうの心

青森中央学院大学 経営法学部 4 年

呂 昂（中華人民共和国）



皆さんは人間と人間を結ぶコミュニケーションの言葉、ありがとうの意味を考えてみたことがありますか。

考えてみると、私たちの周りにはありがとうの意味がたくさんあります、空気はなくてはならない物ですが、無料で与えられます。草や木、花は私たちの心をなごませ、酸素を供給してくれます。座っている椅子、書いている机は、だれかが作ってくれた物です。どんな小さい物でも、自分で作った物ではなく、だれかが作ってくれた物です。ですから、感謝の言葉を言うべきじゃありませんか？

こうしてみると、何から何まで、始めから終わりまで、自分ひとりで自分に与えることができる物はまずありません。例えば、生まれてきた、私たちの生命は両親が与えてくれました。服は工場の工員が作ってくれます、食べ物は農民がうえてくれます。この平和な社会で、いい教育を受けられます。でも、私たちはそんなすべてのことにありがとうと言いません。

自分がまちがって、批判を受ける時も、ありがとうと言い忘れてはいけません。もし、ありがとうをいうことを忘れ慣れてしまうと、私たちの成長はありません。以前、私はこんな体験をしました、自身を持って、重要な任務を担当したとき、ある先輩は私にそれはだめだと否定的な意見を言いました。その時、私はその批判を受けられませんでした。先輩と口げんかをしましたが、その後、自分でよく考えて、自分の短所を指摘してくれた人を恨むべきではありません。その声をじっくり聞いた後、先輩の言葉の意味が理解できて、私は成長することができました。先輩を恨むよりむしろありがとうと言ったべきだと思いました。感謝の気持ちを持つと、毎日の生活は恨みがなくなり、心は寛大になりました。

他人と対等に話ができるのは嬉しいことです。人間が一番嬉しいと感じるのは、他人に認められることです。私たちは言葉というもので、お互いの気持ちを伝えることができます。ですから、みんなの感情がだんだん深まります。だから、家族、友人、知りあいなど、いろいろな人間関係にも、ありがとうを言いましょ。ありがとうの心を持ってください、人間にとって大切なことは自分の心の中のありがとうを大切にすることだと思います。

ありがとうの心を持つことは、人生でとても幸せなことだと思います。この人間社会のコミュニケーションはきっと潤滑になります。感謝の心が薄ければ人の進歩向上は止まり、生きている喜びも十分には味わえません。

ASOSA

留学生の声

青森に来てからもう３年間を経ちました。青森のおかげさまで、たくさんの友達と知り合って、いろいろなすばらしいの自然景観と人文歴史も知りました。私にとって、これらは大切な経験だと思います。このほか、３年間で苦しいの一面もあります。異郷にたった一人での孤独感、他人に認められないのしょうがない、前途をはっきり見えない困惑感、私にとって、これらも大切な経験だと思います。楽しいでも、苦しいでも、ありがとう！もしこれらを体験しなかったら、現在の私がいません。

ありがとう、ありがとう。人や物に対する感謝の気持ちをいつも忘れずに、毎日を暮らしたいものです。

青森へ来た一年の生活

青森中央学院大学 経営法学部 3 年

洪 璋（中華民国）



私は台湾の台中から参りました。洪璋と申します。2011年9月から、青森中央学院大学の経営法学部の3年に編入し、今年は4年生になります。

2011年、初めて親と離れて、自分の夢を実現するために、留学生として青森に来ました。青森に到着して時、この二年間の留学生生活を充実したいと思って、心の中でこんな決心をしました。でも、最初の問題は言葉でした。台湾にいる時、日本に留学するため、日本語を勉強してきましたが、実際、学校で授業を受ける時、日本の友達と話す時の聞き取れる事は厳しかったです。2ヶ月くらい過ぎて、日本人の話スピードはもう慣れて、聞き取りました。

10月の末、初めての冬も来ました。台湾は雪が降らないから、初めて雪の生活は楽しみにしてました。本当に綺麗でした。雪の景色は一回を見て、忘れられないと思います。

4月は春の季節でした。日本で春と言えば、やっぱり花見です。学校は学生達を連れて、弘前公園で花見を見に行きました。とても素晴らしいと思います。

8月になると、青森はとてにぎやかでした。日本のあちこちから、ねぶた祭りを見に来た人達は多かったです。私もゼミの先生のおかげで、先生の妻とお母さんと一緒にねぶた祭り観覧席を座って見ました。本当に素晴らしいと思います。若者達だけではなくて、年上の人達と子供達は全員熱中していました。そして、他の都市からの人達も熱中していました。さすが青森のねぶた祭りです。今年は青森市内のねぶたしかを見えませでしたが、来年、青森で最後の夏休みは青森市内のねぶたではない、弘前と他の祭りも参加したいと思います。

9月の時、ゼミの先生は私が撮影が好きの事を知って、学校に通じて、ある写真スタジオで五日間のインターンシップをとりました。時間はとても短いでしたが、いい経験だと思います。日本の職場の事も接客の事も凄く勉強しました。15、16日は学校の学園祭でした。ゼミの先生の四年生、二年生のゼミ生と同級のゼミの友達と弘前の巨大アップルパイの店を出しました。本当に巨大でした。皆朝8時くらいいろいろな準備をして、アップルパイを焼きました。学園祭の日は結構人気でした。二日間は一時半くらいの時間で完売しました。皆は凄く喜んでくれました。そして、9月の時一番楽しんでいたのは合宿でした。ゼミの友達と先生と一緒に夜越山森林公園でBBQと飲み会を行いました。本当に面白かったです。5時からBBQをしながら、飲み会もだんだん進んでいました。いろいろな話をして、お互いの気持ちを分かり易くなりました。夜10時くらい、酔っていた友達は結構いました。吐いた友達もいました。面白い部分は朝になって、夜の事を全然覚えてなかった友達は一名でした。初めての合宿は今のゼミに入っていないと、こんな面白くないと思います。今まででも、ここ、青森へ来て本当に良かったと思います。